知財業務における生成AI 6モデルの使い分け

GPT-6.2, Claude 5.5/5.2, Gemini 4の実務投入ガイド

2026年11月

Gemini Notebook

AI選定の黄金律：「その判断は後からやり直せるか？」

上位モデル (Top-Tier)

複雑な推論用

「後工程で覆すことが困難な判断」

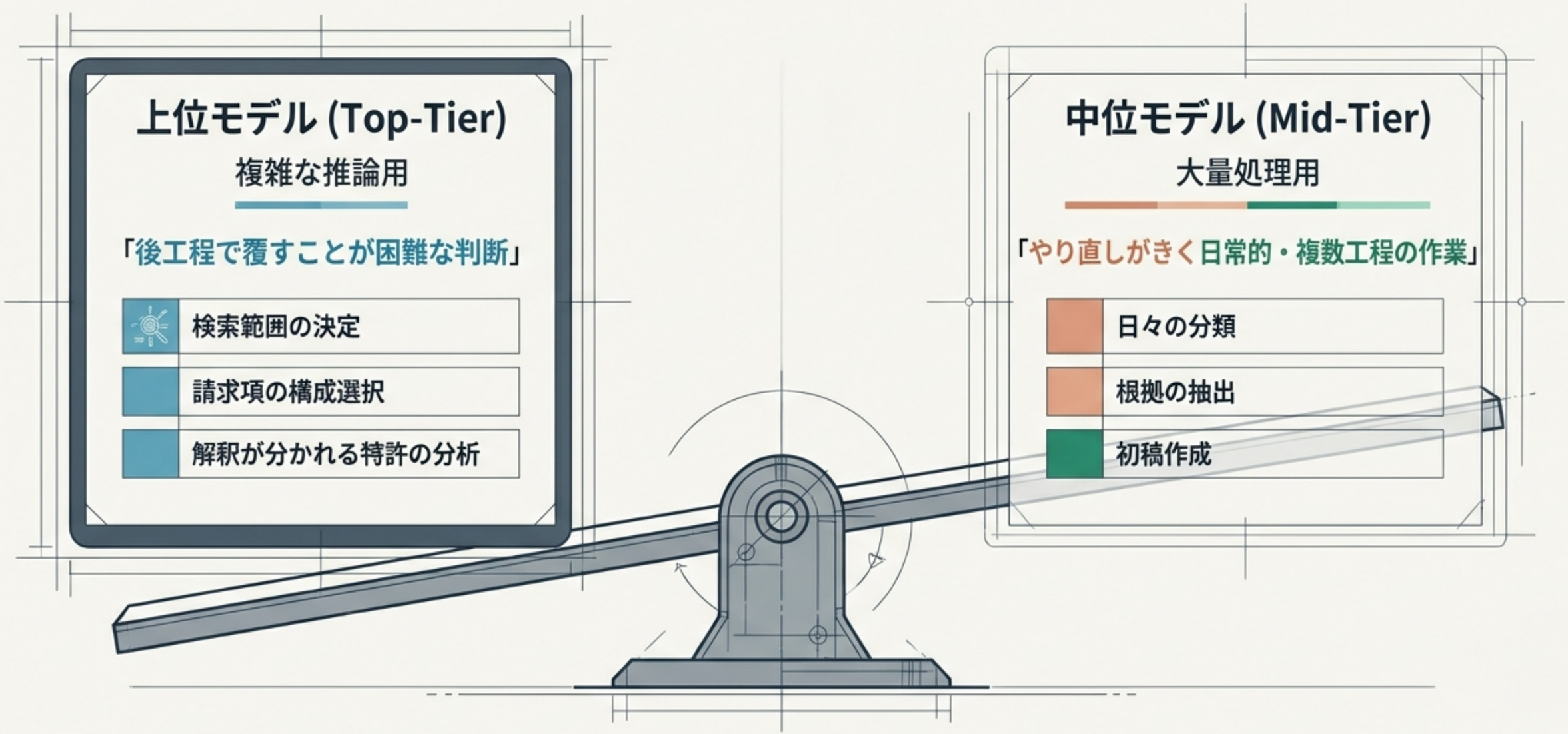
- 検索範囲の決定
- 請求項の構成選択
- 解釈が分かれる特許の分析

中位モデル (Mid-Tier)

大量処理用

「やり直しがきく日常的・複数工程の作業」

- 日々の分類
- 根拠の抽出
- 初稿作成



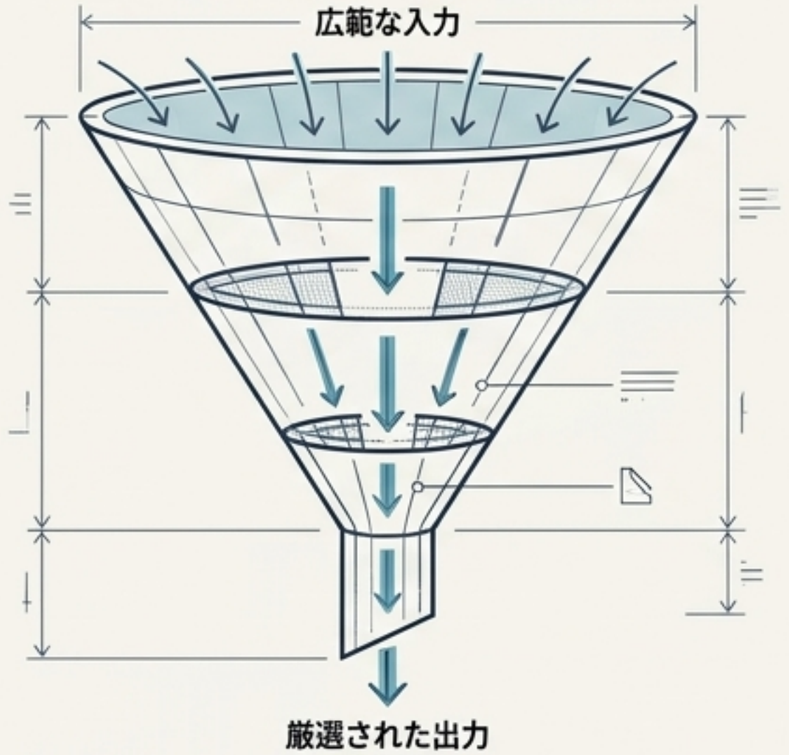
Gemini Notebook

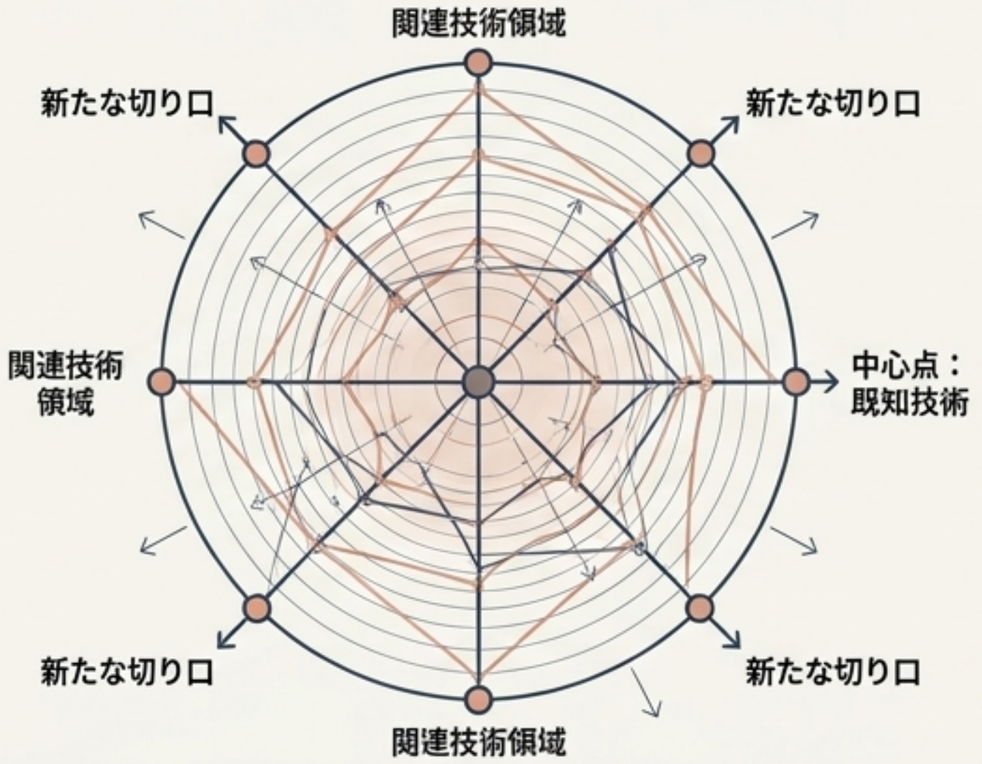
知財特化型：6モデルの能力マトリクス

	OpenAI	Anthropic	Google
中位 (Mid-Tier)	**【中位】GPT-6.2 Sol** ルーチン処理・抽出 (Astraの1/4のコスト) 。新着特許分類、要件対比表の初稿。	**【中位】Claude Opus 5.5** 長文脈の起案者。100万トークン対応。面談記録からの明細書初稿作成。	**【中位】Gemini 4 Neon** マルチモーダル構造化。図面符号、実験表と測定条件の紐付け・整理。
上位 (Top-Tier)	**【上位】GPT-6.2 Astra** 法的評価・対立意見の統合。拒絶理由への応答案比較、FTO争点整理。	**【上位】Claude Fable 5.2** 複雑な科学的推論・発想。上位概念の探索、隣接分野の発見。	**【上位】Gemini 4 Carbon** 深い探索と代替仮説。材料の実施例への遡り、効果を説明する別仮説の発見。

Gemini Notebook

調査戦略：SDI（監視）と無効資料調査におけるアプローチの反転





SDI（新着監視）：ファネル型

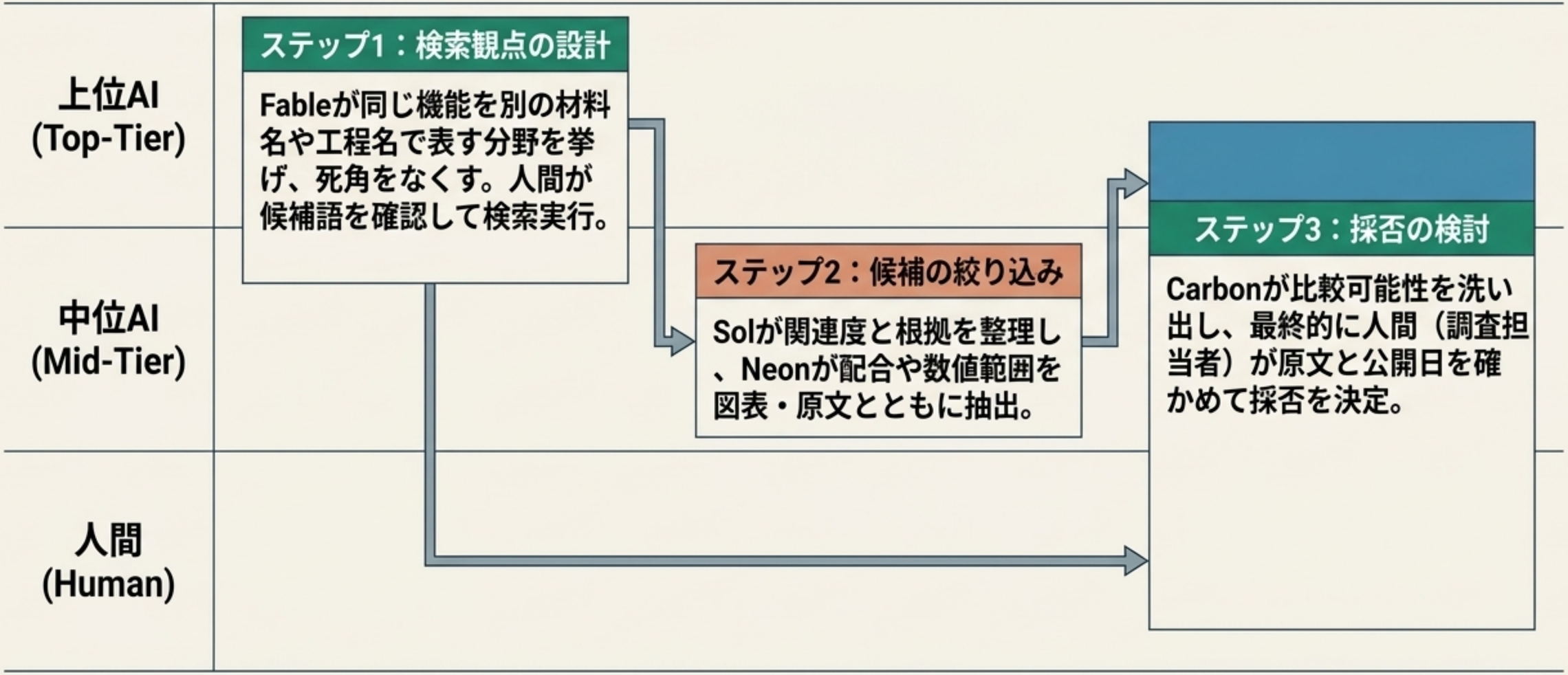
	中位モデル（Sol）を最初に使用。
	対象分野と分類基準が既知であるため、Solで判定理由と根拠段落を記入させ高速にフィルタリングする。

無効資料調査：ウェブ型

	上位モデル（Fable）を最初に使用。
	検索観点から漏れた技術は精読しても発見できない。検索前にFableを使い、新しい検索の切り口（別の材料名・工程名）を設計する。

Gemini Notebook

無効資料・新規テーマ調査のワークフロー



Gemini Notebook

出願ドラフティング：請求項の拡張と代替構成の検討

ベース作成（Opus）

発明提案書と面談記録から明細書の初稿を作成。

限界突破（Fable）

独立請求項の構成（例：「ばね」）に対し、「弾性部材に広げた場合、どの実施形態が根拠になるか？」「別の構成でも同じ効果を得られるか？」と問いを生成。

人間の回答（発明者）

Fableの提示した仮説・問いに対して発明者が回答。

最終統合（Opus & 弁理士）

発明者の回答をOpusが原稿に反映。担当者と弁理士が独立項・従属項・実施形態の配置を最終決定。

Gemini Notebook

中間応答（OA）：レッドチーム・ディフェンス戦略

OpenAI

ブルーチーム（Astra / 起案）

拒絶理由・引用文献・当初明細書から、「反論のみ」と「補正を伴う反論」の2案を作成。引用箇所や補正による除外範囲も明記。

Anthropic

レッドチーム（Fable / 仮想審査官）

重要案件において、Astraの結論を見せずに同じ原資料を渡し、審査官の視点からの反論（攻撃）を生成させる。

最終決定（人間）

両AI間で判断が分かれた文言を原文で確認し、最適な応答方針を決定する。

Gemini Notebook

Strategic Blueprint

FTO（侵害予防調査）：「言葉の解釈」から「物理的現実」への翻訳

言葉
(Words)

物理的現実
(Physical Reality)

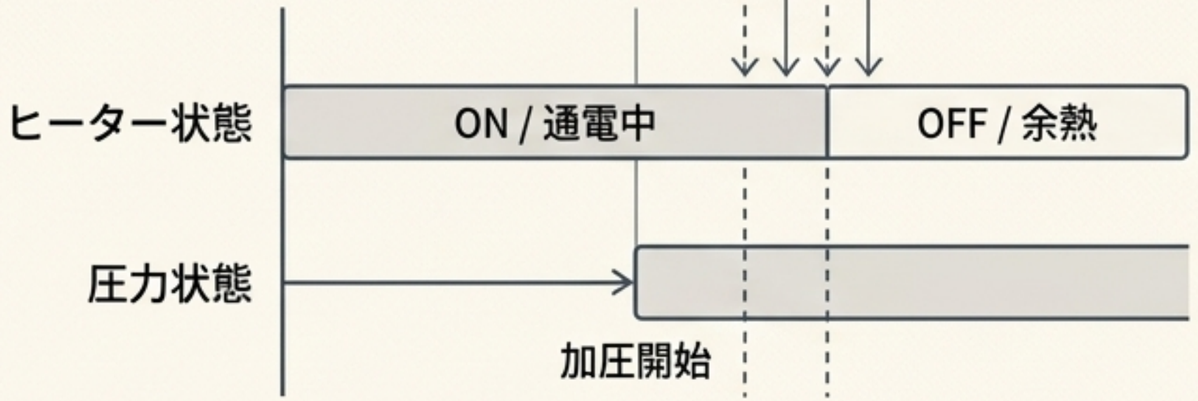
加熱しながら加圧する

テキストの対比（Sol/Neon）

請求項と製品仕様書の要件を並べ、未確認事項を炙り出す。

法的解釈の分岐（Astra）

「加熱しながら」という言葉の解釈候補を整理し、明細書から支持箇所を示す。



物理的証拠の特定（Fable/Carbon）

ヒーター通電中と停止後の余熱を区別するため、技術者が確認すべき「具体的な装置記録（温度履歴など）」を特定する。

Gemini Notebook

FTO検証：人間の専門家による最終確認（Human-in-the-Loop）

インサイト：AIは議論の盤面を整えるが、物理的現実と法的有効性の最終確認は人間が行う

技術者による物理的確認

- [x] Fable/Carbonが特定した照会事項に基づき、実機のログや事実を確認する。

知財担当者・弁理士による法的確認

- [ ] 対象国、基準日、有効な請求項の経過情報を確認。
J-PlatPatで審査・登録情報をたどり、反映の時間差も考慮して必要に応じて登録原簿を確認する。

Gemini Notebook

導入と効果測定：ROI診断テストの設計

推奨する初期テスト： SDI（監視）と中間応答（OA）から開始。

A：中位モデル単独
Control

中位モデル
(Mid-tier Model)

測定する指標
(Metrics)

1. 人間の作業時間（確認・修正にかかった分数）
2. 引用誤り・補正根拠の欠落数
3. 見逃し率（正解集合のうち拾えなかった件数）

B：中位 + 上位モデル併用
Experiment

中位モデル
(Mid-tier Model)

上位モデル
(High-tier Model)

A/Bテストの目的：上位モデルの追加利用費と、見逃しや手戻りの減少（リスク回避）によるコスト削減効果を案件ごとに比較・判断する。

Gemini Notebook

総括および参考文献

結論：生成AIによる知財業務の拡張は、「自動化」ではなく「適材適所の協働」である。
判断の可逆性を見極め、適切なモデルを配置することが次世代の知財戦略の鍵となる。

参考文献（2026年11月19日時点）

[1] OpenAI
Introducing GPT-6.2 Astra and Sol

[2] Anthropic
Claude Fable 5.2 / [4] Fable 5.2
and Mythos 5.2

[3] Google
Introducing Gemini 4 Neon / [5]
Gemini 4 Carbon is now available

[6] Artificial Analysis
Google Models: Intelligence,
Performance & Price

[7][8] 独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）
J-PlatPat 操作マニュアル / 講習会Q&A

Gemini Notebook